



日曜日にバスがあつたらいいです

角地まどかさん
(普代中3年・黒崎)

毎日ではないですが、よく村営バスで学校に通っています。前は、定期券を買っていましたが、今は時間が合わなかったりするので、家の人に送ってもらったり、迎えに来てもらっています。日曜日に出掛けたいときなどは、バスがあつたらいいなと思います。

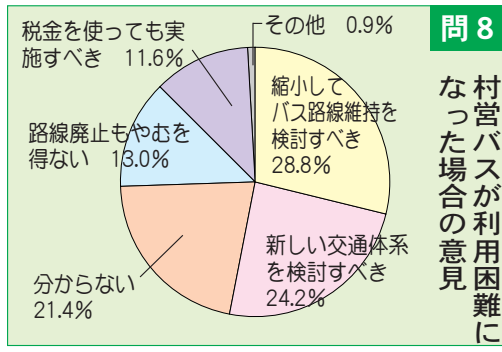


大屋敷 丑太郎さん
(80歳・鳥居)

バスがないと大変なことです

久慈や宮古の病院に通うとき、バスを使っています。バスの待ち時間を使って、床屋に行ったり、いろいろ用足しをしています。家からバス停まで2分ぐらいなので、冬も便利に使わせてもらっています。バスがないば、ほんとうに大変なことだなんです。

路線維持を検討すべき」が28・8%、「新しい交通体系を検討すべき」が24・2%と公共交通機関の確保を希望する皆さんが多いことが分かります。



問8では、村営バスの運行が困難になった場合の意見を伺いました。「縮小してバス

課題

利用は少なくてもなくてはならないバス

普代駅で1時間半村営バスを待っていたという利用者の方が話していました。「毎月、宮古の病院に通っています。もう、村営バスを使って10年になります。わたしたちのような交通手段がないものには、村営バスはなくてはならない存在です。でも、人が乗っていないバスを見ると、気の毒なような気もしますが…」

「自宅から駅までのバス代、普代から宮古までの往復の自動車代、そして宮古駅から病院までの往復のバス代。それから、帰りのバス代…、これだけでも、年金暮らしにはきついですよ」と。利用者ほとんどは、自家用車などの交通手段を持っていない方たちです。この方たちにとって村営バスは、なくてはならない存在なことは確かです。

「小形化など最優先に」
今、村では利用者の減少や年間800万円を超える赤字、バスの老朽化など、いろいろな問題で、村営バスの見直しが検討されています。



雨の日も、雪の日も、皆さんの足となって走り続けます

太田敏光総務課長は「村営バスの問題については、今、総務課内で打ち合わせを行い、みんなで検討しています。平成16年度で支出と収入を比べると、残念ながら約880万円の赤字になっています。この費用も皆さんの大切な税金で賄なっているの、なんとかあまり経費がかからない方法で、なおかつ、皆さんが不便にならないようにと考えています」

「今、2台のバスで村内の4路線を運行していますが、バスも老朽化になっていて、これから今以上に、修繕などにも費用がかかってくると思います。現在のところでは、利用人数が少ないことから、バスの小型化などを最優先に検討しています」と話します。

JRバスの廃止に伴い平成7年、新たな住民の足として運行した村営バス。運行数や経路を増やし、利用者は少なくても、バスを必要とする皆さんのために、休まず走り続けてきました。皆さんの求める村営バスの在り方を考え、平成7年開業当時の「安全で便利な村営バス」を目指し、住民の「新しい足」として、今、村営バスは新たな岐路に立たされています。